

	コミュニケーション技術の 応用的な展開（認知症）	
--	-----------------------------	--

担当講師名

沖縄県介護福祉士会

講師 臼井 啓介

研修領域	実施期日	会 場
ケア領域	令和7年10月12日（日）	沖縄県総合福祉センター西棟4階本会事務局 （zoom ミーティング実施）

到達目標

- ① 認知症の人が認知症を患いながらも自分らしく生きることができるように、認知症の人自身のコミュニケーション方法を知り理解できるようになる。
- ② 認知症の人の表情、ふるまい、言葉、環境とのかかわりなどから、利用者の身体面・精神面・社会面・スピリチュアル面の状況や変化に気づき、言語化できるとともに、利用者にとってのより望ましい状態の実現にむけてチームで取り組むことができる。
- ③ 介護福祉士として、適切な知識・技術（非言語コミュニケーション）を身に着け、適切なコミュニケーションをし、利用者自身の自己実現を図れるようになる。また後輩等に指導できる。

修了時の評価ポイント

- ① 自分自身のコミュニケーションの特性を説明し、それが介護場面においてどのように阻害要因になる恐れがあるのか、何に留意すべきかを説明できる。
- ② 認知症の人のコミュニケーションの特性を説明し、何を求めているのか「ニーズ」「ニード」に応える支援方法を身に着けることができる。
- ③ 様々な場面において、利用者が何を求めているか、などについて、多角的に考察した上で、自身の考えについて根拠をもって説明することができ、後輩等にどのように指導・助言するかを説明できる。
- ④ 沖縄県介護福祉士会より課せられた事前・事後課題の提出の厳守など。

テキスト・使用教材等

- レジューメ、配布資料、講義資料（パワーポイント）、ワークシート（ひもときシート）、you tube 動画
- 介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」（中央法規）
- 認知症ケア標準テキスト「認知症ケアの基礎」、「認知症ケアの実際Ⅰ総論」（認知症ケア学会編、ワールドプランニング）
- 「認知症の看護・介護に役立つよくわかるパーソンセンタードケア」（鈴木みずえ著、池田書店）「認知症のパーソンセンタードケア」（トム・キットウッド著、クリエイツかもがわ出版）
- 「脳活性の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント」（山口晴保編著、共同医書出版社）

自職場等課題

【事前課題のねらい】

- 尊厳の保持と健康・安全管理のジレンマをどう判断するかを可視化する。
- グレーゾーン対応（行動制限や環境的制限）に対する倫理的配慮の視点確認
- パーソンセンタードケアの発想力（「制止する」以外の方法を考える課題解決能力）

【事前課題の内容】

- 事例を読み込み、質問項目に沿ってレポートを作成してください（1200字以内）。
- 事例を通し、認知症の人とのコミュニケーションの課題や不適切なケアについて振り返り、尊厳や倫理を根拠とした根拠に基づく支援について講義で学びを深めるために活用します。

【事後課題のねらい】

○対象者の表情やふるまい、言語、環境などとの関わりを観察し、ひもときシートの分析から行動の背景にある意味を理解した上で、根拠のあるコミュニケーションの実践を展開することができる。また実践をレポートで言語化し説明できる。

【事後課題の内容】

研修での気づきや学びを踏まえて、「ひもときシート」を活用し、「認知症の人へのコミュニケーション技術の応用の展開」を意識的に実施した説明報告をしてください。(1200 字程度)

【事後課題における留意点】

○実際に取り組んだことがわかるひもときシートを使用したアセスメントも同時に提出する。

○個人情報 that 特定できないよう配慮に留意する。